

「あなたの当たり前は、誰かの魅力かもしれない…」

地元の良さ、再認識



大田原通信

大田原市移住・定住交流サロン通信

大田原に住んでいる私たちが「当たり前」と思っていること…。それが移住してきた人にとっては「魅力」に感じられています。この通信では、そんな大田原の魅力について、毎月1回お伝えしています。

料亭から子ども食堂へ

—とちぎボランティアネットワーク県北支部代表—

やすい しょうた
安井 将太 さん

今回は、子ども食堂やフードバンクを運営するとちぎボランティアネットワーク県北支部代表の安井さんにお話を伺いました。大田原出身でも、福祉の仕事をしていたわけでもない安井さんが、なぜここでこの活動を行っているのか、福祉の世界に飛び込んだ情熱について迫ります。



安井将太さん

大田原に移住

安井さんー「私は福岡県出身で、ずっと料理人をしていましたが、コロナ禍のタイミングで色々考えることがありました。そこで、親戚が住んでいて、何度か来たことがあった大田原に思い切って移住してきました。移住後は仕事を探しつつ、地域の為に役に立てる事はないかと考えて社会福祉協議会を訪れたところ、ボランティアを紹介して頂き、参加することを決めました。」

子ども食堂との出会い

安井さんー「(ボランティアを)紹介された次の日には、子ども食堂でボランティアを始めました。週2回、子どもたちと一緒に過ごす時間がすごく楽しくて、2022年4月には当団体の代表になりました。それまでの料理人としての経験とは全く異なる福祉の現場で、とてもやりがいを感じました。今まで料理ばかりしていて、あまり人と関わることがなかったのですが、福祉は色々な人と接することができて楽しいですね。」



子ども食堂の利用者
とボランティアの方々

もっと知りたい



フードドライブで寄付された食品

「子ども食堂やフードバンクをもっとオープンにして、地域の皆さんにも知ってもらおうと思い、ホームページやSNSを始めました。それまでは、子ども食堂って閉鎖的なイメージがあって、あまり表に出しゃいけないみたいな雰囲気があったんですよね。でも、少しずつ地域の理解も得られてきて、食品配布会には以前の4倍くらいの人が集まるようになりました。今では、困っている人が自分でここを見つけて来てくれるようになったんです。直近の2~3年で1,000人弱の利用者がいて、発信をやって良かったなって思います。」

子供達の体験活動

安井さんー「月に2回くらい、親の代わりとなって子供達と一緒に（外出しての）体験活動をしています。ここに来る子供達は、普段、家にばかりいる子たちが多くて、外に出かける機会が少ないんですね。なので、海水浴やアスレチック、映画館やキャンプ等に連れて行ったりしています。初めて経験することも多く、中には海に行ったことがない子もいて、そこで初めて海水がしおいことを学びます。」



子供達と海水浴をする様子

これから



動画発信の様子

安井さんー「私は、人の役に立ちたいという思いが強いんです。特に、人が持ってる魅力を引き出して、それを外に発信していきたいんですよね。他にも、大田原には魅力的な人がたくさんいるので、もっといろんな人と交流したいです。大田原に来てから、福祉や地域の情報を発信するYouTubeも始めたので、ぜひ見てもらいたいです。そしてこれからも地域を盛り上げていきたいですね。」



栃木県大田原市住吉町2-16-22
☎0287-48-6000



ホームページ



YouTube



Instagram



取材した方に聞きました

「あなたの好きな大田原」

大田原の自然風景

自然があるところは気持ち
が良いので大好きです！



大田原市奥沢の風景

皆さんも
#大田原暮らし
でご投稿ください！

Instagramをチェック！

お問合せ

大田原市の移住相談窓口
大田原市移住・定住交流サロン
大田原市本町1-3-1 大田原市役所A別館2階
Tel : 0287-23-8794 (平日/9:00~17:00)
Mail : salon@ohtawara-ijyu.jp



ホームページ



Facebook



Instagram

大田原の暮らし、地域情報など発信中！

担当課：大田原市役所 総合政策部 政策推進課